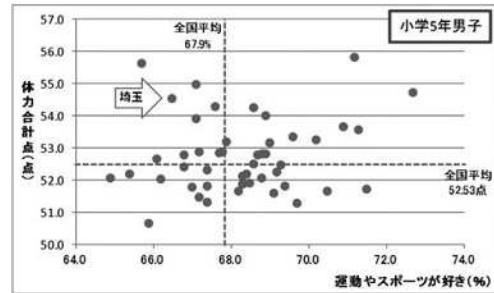


## 令和3年度調査結果から見える取組の成果と課題

### 1 本県の児童生徒の体力（実技）の数値はやや低下したものの、全国的に高い数値を維持

- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果において、小・中学校において体力合計点、総合評価に係る数値は全国と比較して非常に高い。これらは、市町村、学校において、新型コロナウイルス感染拡大防止に努めつつ、授業研究会や研究協議会等で子供が主体的に運動する体育づくりに熱心に取り組んできた成果である。また、県独自の体力プロフィールシート等を活用して個々の体力の課題に応じた取組を行ったことや、これまでの各市町村、学校における体力向上推進委員会を中心とした体力向上に係る計画的、継続的な取組の成果である。



【参考】体力合計点と運動・スポーツ好意度の関係(小5男子)

- しかしながら、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果における令和3年度と元年度の本県の平均値と比較すると体力合計点は、全国の平均値と同様に低下した。また、本県児童生徒の新体力テストについても令和元年度と比較すると、全体的に低下している。この背景には、新型コロナウイルス感染症予防のため、体育時における活動内容の変更、運動部活動の制限等があり、全体的に運動機会や運動量が減少したり、外出自粛により日常的な運動不足が生じたりしたことなどが影響したと推察される。

1 「運動やスポーツをすることは好きですか」		男子	女子
R 3	小学5年生	89.7%	82.6%
R 3	中学2年生	85.3%	73.4%
R 3	高校2年生	86.7%	75.8%

### 2 運動好きな児童生徒の育成を継続

- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査から、「運動・スポーツが好き」「体育・保健体育の授業は楽しい」という児童生徒の割合は、令和元年度同様全国と比較して低い結果であった。しかし、昨年度同様に、高等学校段階における体育・健康等に関する指導等の更なる改善に役立てるため、高校2年生の全生徒を対象に、運動の好意度等調査を実施したところ、高等学校において令和2年度と比較すると高校2年生男女共に、「運動・スポーツが好き・やや好き」「保健体育の授業は楽しい」の割合は増加している。
- 「運動・スポーツが好き」の入り口は、やはり体育授業である。それは、どの児童生徒にも保障されている時間だからである。新型コロナウイルス感染症の影響により、運動の機会が減少した児童生徒に対して、体力を取り戻すためと言って、筋力トレーニングばかりさせたり、長時間走らせたりするだけのトレーニング的な授業を行っても運動好きな児童は育たない。児童生徒が発達の段階と運動の特性に応じた楽しさや喜びを味わう体育授業の充実や運動習慣の確立をはじめ、運動好きな児童生徒の育成を視点とした取組を新型コロナウイルスの感染状況に応じた体育授業を実施しながら、引き続き推進していくことが大切である。

2 「保健体育の授業は楽しいですか」 （「楽しい」・「やや楽しい」の割合）		男子	女子
R 3	小学5年生	93.3%	89.0%
R 3	中学2年生	85.7%	80.3%
R 3	高校2年生	80.2%	76.3%

※ 高校は定時制・通信制を含む。

体力は、人間の活動の源であり、健康の維持のほか意欲や気力といった精神面の充実に大きく関わっており、「生きる力」の重要な要素である

(小学校学習指導要領解説体育編・中学校学習指導要領解説保健体育編・高等学校学習指導要領解説保健体育編 体育編)

埼玉県の目指す体育授業

「学習規律を確立させ、力いっぱい運動し、  
思いつき汗をかく『楽しい』体育授業」

令和4年度の体力向上の方針

児童生徒一人一人の課題に応じた取組により、総合的な体力向上を目指す。

令和4年度の体力向上の目標

一人一人が「目標を持って」取り組み、  
「自己の体力の伸びを実感」できるようにする。